

Maz-motte

名古屋JCがつくる広報誌 マズモッテ

Vol.1
2026.01.15

公益社団法人名古屋青年会議所2026年度（第76年度）スローガン

BE THE HERO

—愛を持って未来を守る—

公益社団法人名古屋青年会議所
第76代 理事長 富永 晃司

Maz-motte

Vol.1

2026.01.15

名古屋JCがつくる広報誌

JCI
Nagoya

発行者／公益社団法人名古屋青年会議所
〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目15番2号 名古屋JC会館 TEL 052-221-8590

Junior Chamber International NAGOYA 2026

賛助・協賛企業の募集について

■賛助・協賛について

名古屋青年会議所は、名古屋のまちを想い、設立より今まで活動を続けてまいりました。今後、より一層まちや市民の皆様から求められる運動を展開していくためには、単独の活動ではなく、多くの方々から共感を得て、ともに活動していくことが大切であると考えています。

そこで、当青年会議所では社会課題の解決に向けて、あらゆるパートナーと連携し、新たな価値、すなわち持続可能なブランドや事業を創造していく取り組みを行っています。当青年会議所の運動にご賛同いただける企業・団体・個人の方には賛助として、それぞれの事業・例会にご賛同いただける方には協賛としてご支援いただき、協働して運動を展開しています。

賛助いただける利点として、当青年会議所は、期首539名の青年経済人である会員から形成されており、経営者層の人間も多く在籍しておりますが、その会員に対して、貴社・貴団体の活動内容や特色をアピールする機会を設けさせていただきます。

また、我々は、地域との協働により、明るい豊かな社会を実現するため活動しております。広報誌やWeb活用により、貴社・貴団体を賛助企業としてPRすることで、より一層のイメージアップを図ることができます。

■協賛によってなされた事業

昨年度、当青年会議所は、複数の事業・例会を、外部企業・団体等の協賛金に支えられて実施しました。

例えば、新たなスポーツ都市を確立する事業「名古屋をアイスのまちへ～World Junior Ice Hockey NAGOYA cup 2025～」では、外部の協賛を多数いただいたおかげで、日本・台湾・タイからチームをお招きし、アイスホッケーの世界ジュニア大会を開催することができました。

また、人間力大賞を表彰する事業においては、名古屋発のオープンイノベーション拠点STATION Aiにて最終選考会・表彰式を行い、地域にイノベーションを起こし社会課題を解決する若き挑戦者たちを力強く応援することができました。

■賛助・協賛の方法

2026年度（第76年度）では、当青年会議所の目的・理念に賛同し、その活動を援助することによって当青年会議所の発展を助成しようとする企業・団体・個人の方に対し、ご要望に応じた賛助プランをご用意しています。また、各事業・例会に対してご協賛いただく場合には、担当委員会とともにその内容を定めていただくことになります。詳細につきましては、名古屋青年会議所事務局を通して、広報・ブランディング委員会までお問い合わせください。

お問い合わせ先

公益社団法人名古屋青年会議所
2026年度（第76年度）広報・ブランディング委員会
メールアドレス：76kouhoubranding@gmail.com

賛助企業（2026年1月1日現在）

株式会社八勝館
株式会社萌葱

マズモッテ定期送付ご希望の方へ

携帯・スマートフォン・パソコンからお申し込み

①QRコードを読み取ってください。→



②「マズモッテ定期送付依頼フォーム」から必要事項をご入力ください。

※QRコードでなく、直接ご入力の際は下記アドレスをご入力ください。
https://nagoyajc.or.jp/about/mazmotte/
※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に従い取り扱います。
※公益社団法人名古屋青年会議所に関する情報提供以外の目的では利用いたしません。
※アクセスにはご契約の通信料がかかります。

※QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

名古屋の魅力を発信する情報をゲット！

名古屋青年会議所のホームページやSNSでも情報を発信中！

公式YouTube
チャンネル



公式Facebook



公式Instagram



公式X (旧Twitter)



公式LINE



NAGOYA.JC



公益社団法人名古屋青年会議所
〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目15番24号
TEL 052-221-8590 FAX 052-202-0464

ホームページもご覧ください。

http://www.nagoyajc.or.jp

名古屋青年会議所

検索

携帯からはこちら！





名古屋市長 広沢 一郎

新年を迎えて



愛知県知事 大村 秀章

新春を迎えて

明けましておめでとうございます。市民の皆様には健康やかに新春をお迎えになられたことを、心よりお慶び申し上げます。

さて、今年は9月にアジア競技大会が、10月にアジアパラ競技大会が開催されます。両大会は本市がこれまでに経験したことのない規模の国際総合スポーツ大会です。市民の皆様と一緒に大会を盛り上げ、最高の舞台をつくり上げるため、開催に向けた準備を全力で進めてまいります。

4月にはメイン会場である名古屋市瑞穂公園陸上競技場がオープンいたします。大会を通じて生まれるレガシーを様々な分野に活かし、本市で両大会を開催することを、必ずや市民の皆様にとりこんでいただけたら

よう、しっかりと取り組んでまいります。

また、今年は豊臣秀吉・秀長兄弟を描く大河ドラマ「豊臣兄弟」が放送されます。この機会を活かし、兄弟の生誕地である中村区の中村公園にオープンいたします「豊臣兄弟！名古屋中村大河ドラマ館」を中心とする誘客促進の取組みを進め、名古屋の魅力を全国に発信してまいります。

さらに、2月には名古屋駅一帯間において、新たな路面公共交通システムSRTの運行を開始いたします。SRTの導入により、沿道が持つまちの価値を高め、新しい都心風景を創出してまいります。

本市には高齢化の進展に伴う福祉・医療体制の強化、子育て支援の充実、産業競争力

の強化など行政課題も山積しています。私は、それらの課題を一つひとつ丁寧に解決し、市民の皆様お一人一人に「豊かで楽しい名古屋」を実感していただけるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年元旦

あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年7月、ついに、世界トップレベルのグローバルアリーナ「IGアリーナ」がグランドオープンを迎えました。

また、昨年は、「ジブリパーク」が開園から3年を、「STATION A」がグランドオープンの1周年を迎えたほか、テクノロジーの祭典「TechGALA Japan 2025」、愛知万博20周年記念事業「愛・地球博2025」、3年に1度の国際芸術祭「あいち2025」を開催するなど、国内外から多くの人が愛知を訪れ、賑わいと笑顔に溢れた1年となりました。

「ジブリパーク」や「STATION A」を始め、これまで積み上げてきた愛知の力と、「IGアリーナ」など新たに加わった力を原動力

として、世界と大交流しながらダイバーシティを生み出し、愛知の更なる飛躍に繋げてまいります。

さて、今年は、9月にアジア最大の平和とスポーツの祭典「第20回アジア競技大会」が、10月にはアジア最大の障がい者の国際総合スポーツ大会「第5回アジアパラ競技大会」が、いよいよ開幕を迎えます。

両大会は、アジア各国・地域との交流を深めるとともに、愛知・名古屋の魅力の世界に発信する絶好の機会でもあります。

県民の皆様と一緒、両大会を大いに盛り上げ、愛知を更に元気にしていきたいと思っております。

層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2027年の「アジア開発銀行年次総会」、2028年の「技能五輪国際大会」など、今後も、愛知を元気にし、日本を元気にするビッグプロジェクトが目白押しです。

目まぐるしく変化する世界の情勢に的確に対応しながら、これらのプロジェクトを着実に進め、日本の成長を牽引してまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、喫緊の課題である人口減少・少子化対策を始め、社会基盤整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境・雇用・多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様の生活と社会福祉の向上、次代の愛知を担う「人づくり」にも全力を注いでまいります。

引き続き、「日本元氣なあいち」、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く進化する愛知の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、「層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2026年元旦

愛の力で、未来を動かす あなたはまちのヒーローだ

平素は、公益社団法人名古屋青年会議所の活動に多大なるご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。謹んで新年のご挨拶申し上げます。

名古屋青年会議所は75年にわたり、このまちのために活動が続けてまいりました。2027年にはJCI世界会議名古屋大会の開催も決定しておりますが、10年、20年先を見据えれば、人口減少に伴う会員数の減少という課題に直面することは避けられません。全国的な人口の減少や関東圏への若年層の集中といった社会構造の変化、そして能登半島地震に見られたような巨大災害への備えは、名古屋にとって喫緊の課題であります。

第76年度は、「愛の力で、未来を動かすあなたはまちのヒーローだ」というテーマのもと、名古屋の未来を創造し、さらなる発展へと導いてまいります。我々の活動の原点に立ち返り、青年経済人としての責務を自覚し、己を尽くして運動を展開してまいります。

まずは、「人財」です。

名古屋が持続的に成長していくためには、既存の価値観にとらわれることなく、誰もが挑戦し、活躍できる環境を整え、次代を切り開く人財を育てることが必要不可欠です。若者の政治参画は喫緊の課題であり、投票率の低い若年層に対し、自ら課題を掘り下げ、政策として発信する場を提供することで、主権者意識を高めます。「政治は自分たちが動かすもの」という価値観を名古屋に広げ、政治変革を促してまいります。

また、社会課題の解決に挑む傑出した若者を見出す「名古屋人間力大賞」については、2026年度はブランディングを重点的に進めます。挑戦者に共感する企業を巻き込み、地域全体で若者を支え育てる体制へと転換を図ります。

次に、「経済と都市創造」です。

JCI世界会議名古屋大会の成功に向けた準備を本格化させるとともに、国際都市としての基盤を強化し、国際社会における名古屋のプレゼンス向上に取り組んでまいります。JCIとの信頼関係を一層深め、各国LOMとの交流を促進することで、JCI世界会議名古屋大会の機運を醸成します。

また、実際に現地に足を運ぶ体験を通じて、若者が世界の広さを体感し、社会の変化に柔軟に対応できるグローバル人財を名古屋から育成します。さらに、子どもの言語吸収力が高い時期に、遊び感覚で英語に触れられる仕組みを構築します。そして、言語や文化の違いを超えて相互理解を育むスポーツの力を信じ、JCCカップなどを通じて交流の輪を広げ、世界平和の実現を目指してまいります。

次に、「国際」です。

のステージに応じた柔軟な働き方を選択できる総活躍社会を目指してまいります。

都市機能においては、巨大災害に備え、「公助・自助・共助」に加え、「近所（助）」の力を活かした防災ネットワークを構築し、「皆で備える」文化を名古屋に根づかせます。観光分野では、名古屋の歴史とナイトタイムエコノミーを掛け合わせ、観光導線を再構築し、「選ばれる都市」の魅力を全国へ発信してまいります。

最後に、「組織の継続と未来への責任」です。

会員の退会や資格喪失者が増加する現状を真摯に受け止め、組織の存続に向けた長期的な視点での改革を進めます。名古屋青年会議所の目的や活動意義に共感し、「人のため、まちのために己を尽くす同志」を増やしてまいります。会員拡大を単なる数値目標とせず、100周年を見据えた、会員一人ひとりが「自分の子どもを入会させたい」と心から思えるような、誰にも誇れる団体を目指します。

結びに、市民の皆様、関係諸団体の皆様、そして会員の皆様におかれましては、本年度も公益社団法人名古屋青年会議所の運動に対し、深いご理解と変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

「挑戦と新たな出会いにより さらなる飛躍を」

明けましておめでとうございます。
皆さまには、令和8年の新春を健やかにお
迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年11月より会頭としての2期目がス
タートいたしました。3年前の就任時に掲げ
たキャッチフレーズ「未来の名古屋を拓く力
を支える・繋がる・広がる」を一層深化・
発展させ、具体的な取り組みを重ねながら、
当地のさらなる発展に全力で取り組んでま
います。

中小企業支援で 地域経済を支える

さて、我が国経済は足元では緩やかな回復
傾向を維持しており、賃上げ基調を背景とし
た成長型経済への動きが着実に進んでおり
ます。一方、米関税措置の影響や日中関係
の動向など、依然として数多くの不確実性を
抱えています。

とりわけ中小企業では、物価高騰や人手不
足、DXへの対応などが深刻な課題となつて
おり、価格転嫁の動きは広がりつつあるもの
の、転嫁率は未だ3〜4割程度にとどまるな
ど、厳しい経営環境が続いております。地域
経済の屋台骨ともいえる中小企業をしっか
りと「支える」ところが、商工会議所の最重
要の使命であり、全役職員が一丸となってサ
ポートしてまいります。

会頭に就任以降、会員企業を100社訪問
するなかで、各企業が「百社百様の強みと創
意工夫で、他社との価格競争のみに陥らず、
付加価値の高い商品やサービスの開発・提
供に挑戦している姿を見てまいりました。

厳しい環境下だからこそ、自社の強みを今
一度見つめ直し、従来の枠に捉われない新た
な取り組みで未来を切り拓いていただきた
いと思います。前向きにチャレンジする企業
を1社でも増やすべく、本年も経営指導の充
実を図りながら、伴走支援体制の強化に取り
組んでまいります。

また、人手不足への対応や賃上げの原資を
確保していくためにも、DXの推進やAIの
活用による業務効率化や付加価値の創出が
不可欠です。昨年度は、先進的に取り組む企
業を顕彰する「NAGOYA DX・生産性向
上アワード」を実施いたしました。本年度
は受賞企業の視察会や他地域の先進企業を
招いた勉強会など、DX推進に向けた環境整
備や実践支援を本格化させてまいります。特
に、中小・小規模事業者の皆さまには
Pit-NagoyaによるIT導入支援
やAI活用の相談も受け付けており、DX推
進の取り組みの裾野拡大に注力しています。

つながりから新たな価値 やイノベーションを創出

不確実性が増す時代において、企業が持続的
な成長を遂げるためには、新たなビジネスの挑
戦やイノベーションの創出が不可欠です。異業
種・異分野間の連携はもちろん、行政や研究機
関、スタートアップなど多様なステークホルダー
とのつながりはますます重要となります。

このため、「メッセナゴヤ」や「アライアンス・パー
トナー発掘市」などの展示会・商談会を実施
し、企業同士が直に出会い、協業や販路拡大に
「繋がる」場を二層充実させてまいります。

また、産業の分野では、ものづくり産業の集
積地としての強みを活かし、航空機や医療機
器、環境・エネルギーに加え、これから成長が期
待される宇宙産業への参入支援にも取り組み、
次世代産業の育成・振興に注力しているところ
です。

さらに、「なごのキャンパス」などを通じたス
タートアップ支援や異業種交流の促進により、
イノベーション創出に繋がる環境づくりを進めて
まいります。

広がる国際交流と 都市機能の強化に向けて

今年は、最大45の国や地域から約1万5、
000人が集まるアジア最大のスポーツの
祭典「アジア・アジアパラ競技大会」が当地



名古屋商工会議所
会頭 嶋尾 正

結 び

本年の干支である「午」は、力強く駆ける姿か
ら「物事が順調に進み、発展や成功へ導く」と言
われています。皆さま方には、変化の激しい経営
環境の中でも果敢に挑戦を続け、着実に歩みを
進めていただきたいと思います。

2026年も、会議所活動への一層のご理解
とご支援をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさ
せていただきます。

「真の心が生み出す 幸せな国 日本へ」

日本青年会議所 基本理念



公益社団法人日本青年会議所

第74代会頭 加藤 大将

あけましておめでとうございます。

公益社団法人名古屋青年会議所の皆様にお
かれましては、輝かしい新春をお迎えのこ
と心よりお慶び申し上げます。

また、平素より公益社団法人日本青年会議
所の活動に対して格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

貴青年会議所におかれましては、富永晃司
理事長のもと、「BETHEHEROー愛
を持つて未来を守るー」の力強いスローガ
ンを掲げ、明るい豊かな社会の実現に向け
邁進されることと存じます。

2026年度、日本青年会議所は「真の心
が生み出す 幸せな国 日本へ」の基本理念の
もと、家庭や地域といった身近な暮らしの場
から、国民一人ひとりが未来に希望を抱き続
けられる社会の創造を目指し、全国各地にて
運動を展開してまいります。

その運動構築にあたりましては、「誰に、ど
のような価値を届けるのか」という視点を常
に念頭に置き、青年会議所の枠を超えて、広

く社会に必要とされる運動を創出すべく、
真摯に取り組んでまいります。

私たち一人ひとりが、手と心を携えて社会
に変化をもたらす、希望という名の力を注ぎ
ながら、共に幸せな未来を築いてまいりま
しょう。

結びに、貴青年会議所の更なるご発展と、
地域における運動が大きな成果をもたらさ
れますこと、そして皆様にとって2026年
が実り多き一年となりますよう、心より祈念
申し上げます。

TRUE MIND TRUE HOPE
（幸せな未来へ）



2026 出向者一覧

JCI

JCI JCI基金委員会
委員
播磨 一夫



JCI APDC
財政顧問
坂口 晃逸



公益社団法人日本青年会議所

顧問

安井 琢磨



愛知ブロック協議会
会長

柳澤 幸佑



サマーコンファレンス
特別委員会
委員長
社本 崇志



国際ビジネス連携委員会
副委員長

片山 義章



国際会議支援委員会
副委員長

大野 祐揮



グローバルアライアンス
構築委員会
副委員長

男城 月菜



JCI関係委員会
副委員長

梁川 雄太



地域開発会議
副議長

八瀬 俊輔



スポーツ人財育成委員会
副委員長

菊池 直弥



財務運営会議
副議長

本田 大三



財政審査会議
副議長

田邊 俊丞



総務委員会
副委員長

小山 洋史



サマーコンファレンス特別委員会
総括幹事

前川 将也



次世代教育システム確立委員会
幹事

橋本 優也



価値デザイン委員会
幹事

岡山 将典



公益社団法人日本青年会議所 東海地区協議会

顧問

中村 正俊



副会長

柳澤 幸佑



公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会

会長

柳澤 幸佑



監査担当役員

澤田 章弘



運営専務

馬場 慶輔



防災共育推進委員会
委員長

吉水 峰志



事務局
事務局長

清水 悠臣



財政局
財政局長

山本 雅美



LOM支援委員会
副委員長

石神 正雄



ブロックアカデミー委員会
副委員長(塾長)

山田 浩気



グローバル都市愛知創造委員会
副委員長

河合 森



共感デザイン委員会
副委員長

九郎丸 大樹



ブロック大会運営委員会
副委員長

笹本 和義



事務局
総務次長

石濱 豪規



事務局
会務次長

岡 徳久



事務局
渉外次長

竹山 凌馬



財政局
財務次長

荒川 慶成



防災共育推進委員会
総括幹事

小林 建誼



防災共育推進委員会
運営幹事

加藤 欽



防災共育推進委員会
会計幹事

青井 史織



事務局
監査担当役員補佐

村瀬 悠馬



2026 新年のご挨拶



公益社団法人日本青年会議所
東海地区 愛知ブロック協議会
2026年度 会長
柳澤 幸佑

謹んで新春をお祝い申し上げます。
公益社団法人名古屋青年会議所の皆様方のご健勝とご繁栄を心よりお祈り申し上げますとともに、平素より公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会の活動と運動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年度、愛知ブロック協議会は「G o m m e r s i v e 没頭するほど楽しめる愛知の創造」

幸せな愛知の創造」をスローガンに掲げて活動と運動を展開いたします。LOMの抱える課題に対する実践的な支援、LOMの未来のリーダーとなるべく資質向上を目的とした教育、世界に誇る各地域の魅力を再発掘、大人も子どもともに学べる地域を巻き込んだ実践的な防災共育、誰かに語りたくなるような共感を生む運動発信を基本方針として、それぞれが住み暮らすまちと青年会議所が抱える課題に向き合い、進むべき方向をともに考え、仲間とともに課題に取り組んでいく姿を周囲に発信し巻き込んでいくことで、没頭するほど楽しめる幸せな愛知を創造してまいります。
公益社団法人名古屋青年会議所におかれましては、来年に開催されるJCI世界会議

名古屋大会の開催の機運を高めていく重要な年であり、理事長 富永晃司君の卓越したリーダーシップのもと、所信に掲げられた様々な目標に向かって邁進され「愛にあふれる名古屋のまち」を実現していくことで来年に迫るJCI世界会議名古屋大会につなげていくのだと確信しております。
結びに、皆様の本年の活動が成功裏に終わり、青年会議所に入会した目的を達成できることを祈念申し上げますとともに我々愛知ブロック協議会もその助を担えるよう邁進してまいります。どうぞ本年も層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

愛知ブロック協議会 2026年度スローガン

G o m m e r s i v e

没頭するほど楽しめる幸せな愛知の創造



公益社団法人日本青年会議所
2026年度 東海地区協議会
会長
伊藤 和也

謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素より東海地区協議会の運動への格別のご理解とご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。
2026年度の東海地区協議会は「未来を見据えた行動が今を輝かせ未来へのつながりが生まれる誰もが幸せと感じる東海へ」を基本方針として掲げ、個人・LOM・ブロック・地区・本会のそれぞれの運動をつなぐ架け橋として、東海地区協議会が連携の要となり、目的とする個人や組織に幸せのつながりを確実に届けます。一人ひとりが主役となつたつながりを通じて生み出される運動効果の最大化を図り、幸せな

未来の創造を実現してまいりたいと考えております。
東海地区協議会では、個人・LOM・ブロックの運動を適切に収集し本会とつなぐ総合連絡調整機関として機能を果たすとともに、地区内の4ブロック協議会を牽引する存在となります。東海地区は80LOMと多くのLOMが存在します。各地で日々、より良い社会の実現に向けた多くの運動が展開されています。しかしながら、LOM単位で発信できる運動には限りがあり、より多くの力で運動発信する機会が必要になっていきます。全国的にみても会員数の減少が目立ち、未来に希望を描くことが困難だと感じる場面も増えていきます。だからこそ、地域の枠を超えた連携と協力が求められており、中長期的な視点で地域社会の未来を見据え、行動を起こすことが今まさに必要です。東海地区協議会では、各地が自立的に活性化できる仕組みを導入し、個人の能力向上とLOMの持続的な活性化

を支援し、また、災害発生時には、これまで地区内で築き上げてきた支援体制を引き継ぎ、各ブロック協議会と連携しながら迅速かつ的確な復興支援を実施してまいります。そして、公益社団法人名古屋青年会議所、富永晃司理事長におかれましては、「愛あふれる名古屋のまち」の実現を目指して2026年度は力強い運動を発信し、素晴らしいスタートができることを、お喜び申し上げます。名古屋青年会議所と東海地区協議会で、地域が愛あふれるまちになるよう層の連携をし、挑戦し続けてまいります。
皆様におかれましては、今後とも東海地区協議会の運動に対し、引き続きのご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。結びに、皆様の「健勝と社業のさらなる飛躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

総務グループ

適切かつ柔軟な組織運営を行い、
市民に必要とされる
大きな運動づくりを支えます。



グループ長 青木 宏樹



まちづくりグループ

市民の活力と都市の魅力を高め、
災害に強く持続可能な
名古屋のまちの創造を目指します。



グループ長 石野田 洸平



経済グループ

先進技術と多様な人財の
活躍による持続可能な地域経済の
確立に向けた運動を展開します。



グループ長 前畑 大輔



国際グループ

国際交流を推進し世界で活躍する
人財を育み、国際都市名古屋の
確立を目指します。



グループ長 山口 敬



人財育成グループ

組織ブランディングを強化し、
地域に必要とされる人財を
育成する運動を展開します。



グループ長 坪井 健一郎



第76年度は5グループにて運動を展開し、
己を尽くして
愛にあふれた名古屋の実現を目指します。

専務理事



第76年度 専務理事
太田 和宏

